

理研会報

発行
印教研 理科学研究部
事務局
成田市幸町984-1
成田小学校

地方理科センター

21年間の幕を閉じる

成田市立成田中学校

印教研理科センター事業終了に当りて

理科教育振興のため昭和三十四年度より千葉県教育理科センターより委託を受けて現在まで二十一年間実施してまいりました。地方理科センターも、昭和五十四年度をもちまして、使命を遂げたとの理由から事業を終了することにいたしました。

当地方理科センターの事業は、理科研究部を中心組織され、運営がなされてまいりました。講師に選ばれた先生方も市内の学校から選ばれ、指導していただきました。

受託される各学校の先生方も、理科センターの指導を受けて、事業として成田市中では、主として夏季休業中に理科講習研究会を実施してまいりました。しかし、昭和五十四年度をもちまして当初の目的が達成できたといい、この事業を終了することになりました。

かえりみまると、三十年代は、日本でも科学技術教育に力を入れた。当成田中学校でも、理科センターとして市内の中学校理科の先生方を中心に、理科講習研究会を行なってきた。夏の暑い中、協力委員の先生方を中心に相互に自主研修を重ね、特に教材の製作を含めての研修は、県センターでも高く評価されてきた。

二十二年もの間、続けてこれらを行ったのも、諸先生方の熱心な協力のおかげです。本当にありがとうございました。

第29次全国教研報告

白井町立大山口中学校 松倉正昭

「探究の科学」による「現代化」は、多くの理科教材において、子や理科についていじらない子をつくり、破壊した。

それに代わり「ゆとりある学校」がうたわれ、理科においても内容の精選や授業時間の削減が行われ、教科書も薄くなった。しかし、ほんとうのゆとりができたのだろうか。

内容も減ったが、授業時間も減り、教師はほとんどゆとりがないのではないのか。ではないだろうか。

また教科書も薄くなれば、たいてい、たいてい、文章が短くなつて

今後の課題として、「小・中・高を通じて教育過程はこれだ」といふような、理科教育の目的や「理科教育を通して、どのような人格形成をしていくか」といふ問題と実践をとおして、と議論される必要があると思う。

全国教研に参加して、理科教育には、まだまだ解決されていない問題が累積していることを感じた。新しい全国教研の内容については、「理科教室」の二月号を参考にされたい。

大豆粉と小麦粉を等量混合し、六十度で三十分程度加熱した粉末を、ゆきましの水に0.1%の割合で溶かしたものをミドリムシ・ミカヅキモ・固形肥料のハイポネックスの0.1%水溶液で比較的長く培養することができるとのこと。



中学校 養育中 岡口 特
微生物の確保について

中学校の微生物に関する教材には、「顕微鏡下の世界」、「環境の変化と動物」等がある。学習時に於て、生徒、又は教師が採集し、目的とする微生物の必要量が得られれば問題はないが、「肥成性」「時期」「量」等、思いどおりにいかない場合が多い。従って、微生物の培養及び飼育は、どうしても必要であると思われる。

中学校において、年間を通じて純粋に培養し、必要量を供給することは、器具や設備等の問題がある。そこで、多少、他の生物が混入していても、二、三ヶ月程度、必要量を確保し、実験に供することとができれば充分であろう。また、培養、飼育の過程を生徒に参加させることにより、興味、関心を育

「培養・飼育の実践例」

図のような容器の中に、培養液を入れる。次に、ソウリンシを含んだ水スボイトで、二、三回入れ、二十五度前後で暗所に保存すると高密度のソウリンシを三日後に得ることが出来る。同時に、培養液を変えてやれば、一年は培養することが出来る。

培養液は多くのものがあるが、次のものが、もっとも簡便である。

大豆粉と小麦粉を等量混合し、六十度で三十分程度加熱した粉末を、ゆきましの水に0.1%の割合で溶かしたものをミドリムシ・ミカヅキモ・固形肥料のハイポネックスの0.1%水溶液で比較的長く培養することができるとのこと。

今年度の理研会報に載せたように、七名の先生方から実践記録をいただきました。これから、少しお寄せください。

もうすぐ夏休みは、しんげ、タコホ、たろさんの花が咲きはじまります。楽しい遊びを考えてみてはどうでしょう。参考文獻もいくつか載せています。